

行政視察報告書

令和7年7月 16 日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員 鋒山紀子

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和7年度議会運営委員会行政視察研修
2. 視察期間 令和7年7月3日(木)～7月4日(金)
3. 視察場所及び目的
 - ①静岡県富士市
議会改革の取組について(議会における事業評価等)
 - ②埼玉県所沢市
議会改革の取組について(議会評価、議員間討議、政策研究審議会等)
4. 調査内容感想等

・視察の目的

①静岡県富士市→議会改革の取組として、富士市議会基本条例に基づく
事業評価、議会報告会、政策討論会等の先進事例を学ぶ

②埼玉県所沢市→市議会の様々な議会活動について、自己評価の実施、
基本条例に基づき開催される政策討論会、政策研究審議会等の先進事例を学ぶ

・視察内容

静岡県富士市→人口 245 万余、面積 244k²m 余、温暖な気候、豊富な地下水を利用した、製紙産業が盛ん。平成 20 年に富士川町と合併し、新「富士市」となる富士市議会、議員数は 32 人、議会運営委員会他、5 つの常任委員会、2 つの特別委員会、他に全員協議会、議会改革検討委員会、議会広報委員会、会派代表者会議等からなる。今回学んだ事業等の評価は基本条例に基づき、決算の審査に当たり、市長が執行した事業等の評価を行い、市長に対して明確に示すとともに、予算に反映するよう求めるためである。6 月定例会会期中に対象事業を選定、選定方法は会派で協議→委員会（分科会）に上げる。評価対象は予算小事業、企業会計は主に事務事業、事業評価シートを作成しチェック項目で評価する。効果としてひとりの議員の意見や要望ではなく議員の総意として当局に提出されることから、改善や見直しを求めたものは反映されやすい。また議員間での討議が行える、議会報告会において市民に関心を持ってもらえる、当局にとっても視点を変えて、事業を見直すことができる等である。

評価シートを用いてではあるが、本委員からの質疑で、事前調査、ヒアリング、現地視察等手法があるがこういったプロセスを経て実行されているか、には現実には調査不足の声があったと答えられていた。同一事業に対して、否定するあるいは肯定する当然意見の相違はある、しかし長時間かけて議論し納得するものにしていくとのことであった、議員間討議を重視されていた。

その他に議会モニターの声の活用はとの問いには、市政についてではなく、議会活動に反映させることを目的に基本条例に定めているということであった。

埼玉県所沢市→人口 342 万余、面積 72k²m 余、日本初の飛行場から飛行機が飛んだ「航空発祥の地」であり、日本 3 大銘茶の地でもある。

所沢市議会、議員数 33 名、委員会は議会運営委員会、5 つの常任委員会、広聴広報委員会からなる。事業評価について現在行っている様々な議会活動について毎年自己評価を行っておられる。評価については評価に留めることなく今後の取り組みに活かし、更なる改善を図られている。その目的は議会事業について説明責任を果たす、改善、効率化、予算編成における資料等この内、審議における全ての議案について、統一フォーマットによる資料の

提出を求められている。議会事業評価は議会運営委員会および広聴広報委員会による所管事業の自己評価をおこなわれている。所沢市議会において広聴広報委員会の役割はたいへん重要な位置づけである。議会改革の成果を報告書としてまとめ、市議会 HP で公表されるなどしっかりと見える化に取り組んでおられる。この議会評価を導入に至った経緯は一年間の事業の総括議会基本条例の進捗確認と総括のためである。自由討議について委員からの動議を受け委員長が委員に諮り実施。それぞれの考え方が明確になる、論点整理円滑な審査としての効果がある。問題点等を明らかにする。また政策研究審議会を議会が設置する常設型の付属機関として「専門的知見の活用」を最大限に活かす等様々な取組みをされていた。審議会は大学等研究機関との連携、議員研修の充実強化を図り、議会機能の強化と議会の活性化に資するため、議長の諮問に応じて審議。議会報告会については運営を議会が行う。政策討論会について所管は広聴広報委員会。政策形成サイクルへ反映させていく。委員会でも実施することができる等要綱に明記。積極的に開催、議会報告会との違いは報告会は市民と議員との自由な意見交換、討論会は特定テーマに対して議員間討議を通して政策立案、政策提言を積極的に推進する。等々市民に開かれた議会に取り組まれている。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

富士市議会→事業評価については対象事業の抽出、選定は会派で協議出されたものを委員会でしぼりこみ更に委員会で班を結成し検討の後1~2ヶ評価対象事業と選定する大変丁寧にされている。効果については上記に記したが課題もあると言われていた。14年目を迎え評価事業の選定に苦労している、議員は事業を推進したいことが多いため、拡充、予算の増を求める意見が出やすい、評価の作成については議員の合意を重視しているため、平均値をとる発想になり評価が真ん中による傾向があると苦慮されていた。しかし議員の合意、委員会での議論がしっかり行われていることに感服した。本市議会では委員会で十分な議論が行われているかというところとも言えない、時間をかけて議論を深め

るこのことは今後取り組んでいかなければならない。時代、社会の変化によって役目を終えた事業があると思う。本市議会基本条例に「討議による合意形成」として一議員相互の公平で自由な議論を保障しと明記されている今一度議会として向き合う必要があると感じた。政策討論も同じである。これらを積極的にいき、事業評価という手法に結び付けたい。

所沢市→第一に感じたことは、大学等との連携、好立地にあるということ
第二に本市議会では広報広聴委員会としているが所沢市議会では広聴広報委員会とされていて広聴機能を更に強化された経緯がある。議会事業評価を担うのが議会運営委員会と広報広聴委員会であるが、事業の自己評価を行っている議会活動これで良いのかを検証する仕組みは本市議会には無い、これは重要である、基本条例の見直しに努めてはいるが、評価、議員間で総括することは十分でない、この点検証し、どのように進めていくか研究が必要と感じた。
最後に所沢市議会が取り入れている、議会審議における論点情報の形成として全ての議案について当局から統一フォーマットによる資料提供を受けておられるこのことについても研究が必要である。両市に共通して言えることは、議会と市民との関係、市民モニター等の導入、政策討論会等の実施を通して、政策立案に力を入れておられる、本市議会も今後力を入れていかなければと感じた大変有意義な視察研修であった。